

# 長崎大学

## 医学部 医学科



入学案内  
2018



N a g a s a k i U n i v e r s i t y S c h o o l o f M e d i c i n e

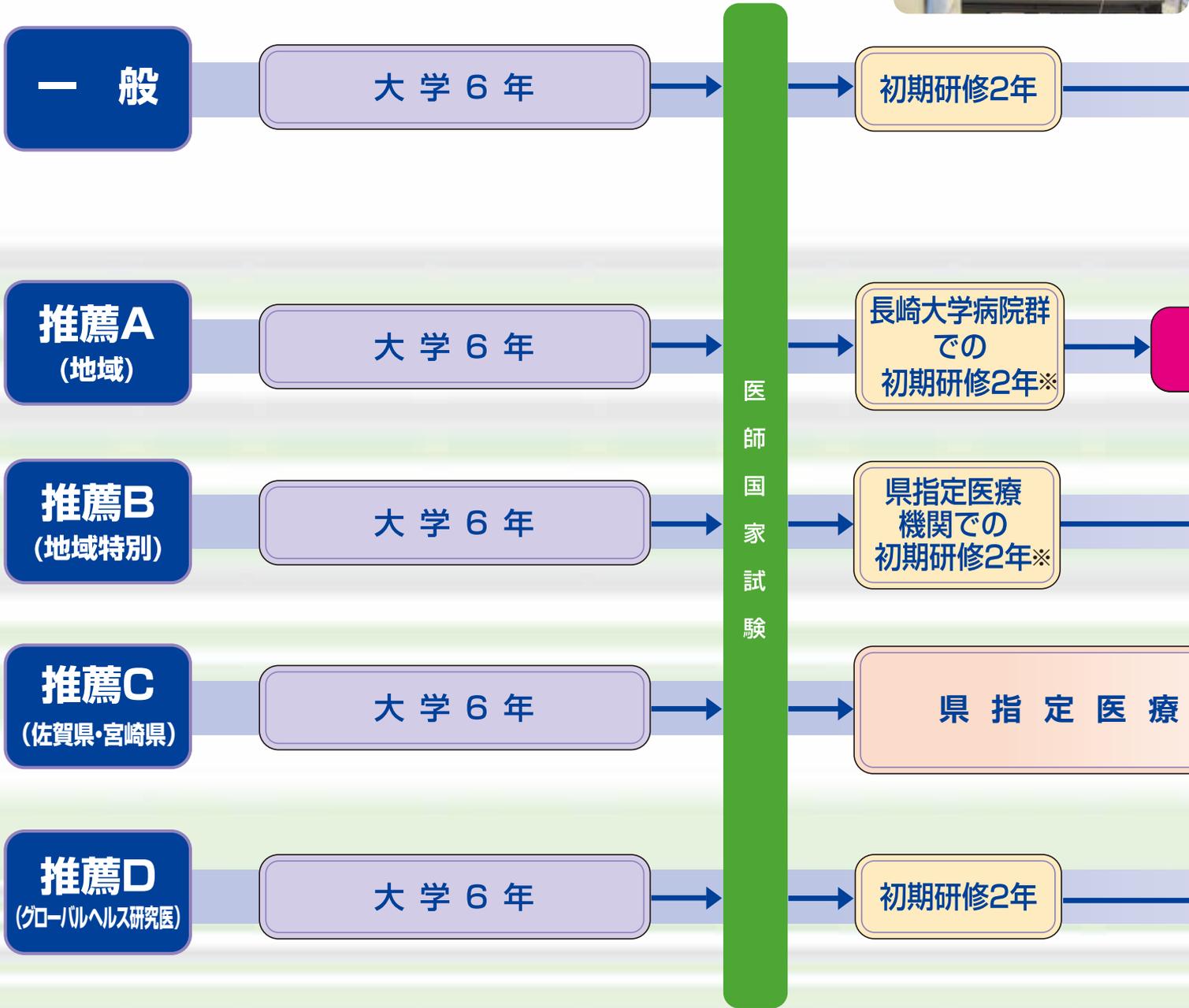


### ポンペの言葉

医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。  
ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分  
自身のものではなく、病める人のものである。もし  
それを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。



# 入学から卒業、大学院進学まで



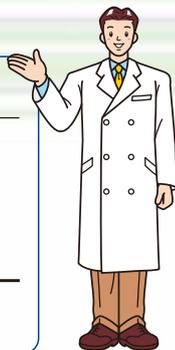
すべてのコースで医師国家試験の受験ができます。

## 大学6年間カリキュラム

### 教養教育科目

### 専門教育科目

- ・ 医と社会
- ・ 正常構造と機能
- ・ 疾患総論
- ・ 疾患各論
- ・ 医学・医療と社会
- ・ 診療の基本
- ・ 臨床実習
- ・ 基礎研究実習
- ・ 医学総合セミナー
- ・ 医学英語



## 医師国家試験年別合格率

	長崎大学新卒者合格率 (%)	全国平均合格率 (%)
平成25年(107回)	90.5	93.1
平成26年(108回)	96.9	93.9
平成27年(109回)	92.9	94.5
平成28年(110回)	95.1	94.3
平成29年(111回)	94.3	91.8

## 卒業後の進路

卒業生の多くは臨床医になります。義務である2年間の初期研修、次いで専門研修を経て一人前の医師になるトレーニングを積みます。その他、基礎研究医（大学や研究所）、行政職に進む人もいます。長崎大学医学部医学科から政治家も輩出しています。

## 入学料・授業料・奨学金制度

- 入学料……………282,000円
- 授業料(年額)……………535,800円

- ※1 入学料については、免除(全額又は半額)及び徴収猶予の制度がある。
- ※2 授業料については、免除(全額又は半額)の制度がある。
- ※3 入学料及び授業料は改定される可能性がある。

### ■奨学金制度

#### ①日本学生支援機構の奨学金

第一種奨学金(無利子)		第二種奨学金(有利子)
自宅通学	45,000円/30,000円 いずれかを選択	30,000円 50,000円 80,000円 100,000円 120,000円 上記金額の中から選択
自宅外通学	51,000円/30,000円 いずれかを選択	

#### ②長崎県医学修学資金貸与制度

(1) 貸与金額 平成29年度入学者:6年間の貸与総額(予定) 9,336,800円

	入学料	授業料	図書費	生活費	年間貸与額
1年次	282,000円	535,800円	—	840,000円 (※1)	1,657,800円
2年次	—	535,800円	—	840,000円 (※1)	1,375,800円
3~6年次	—	535,800円	200,000円	840,000円 (※1)	1,575,800円

(※1)70,000円×12月

(2) 貸与利率 年14.5%

#### (3) 返還免除

卒業後、「履行すべき義務」を終えた場合に元金及び利息の返還が免除される。

#### (4) 履行すべき義務

貸与を受けた期間の1.5倍に相当する期間(うち、離島・へき地に2分の1以上の期間)、知事が指定する医療機関等への勤務が必要。

#### ③各種奨学金

地方自治体、民間企業及びその他団体等が設けている奨学金制度がある。

### ■諸納付金等(入学年度)

	種 別	金 額	備 考
1	学生教育研究災害障害保険	4,800円	6年間分
2	学研災付帯賠償責任保険(付帯賠償)	3,000円	//
3	医学部教育後援会費	60,000円	//
4	医学部学友会費	15,000円	//
5	長崎医学同窓会費	25,000円	//
	合 計	107,800円	

### ■その他の納付金等

- 各種予防接種費 約20,000円
- 共用試験受験料 25,000円(29年度)
- 医師国家試験受験手数料 15,300円(28年度)
- 6年次国家試験対策(模試・参考書等) 約100,000円

専 門 研 修

大 学 院 4 年

大 学 院 4 年

専 門 研 修

長崎大学病院群での専門研修1年※

県指定医療機関  
での専門研修(7年)※

機 関 で の 研 修 ※

大 学 院 4 年 ※

※詳細は入学者選抜要項、学生募集要項参照



# 各入学枠の説明

## 一般枠

医学・医療分野に対して熱意と高い意志を持ち、この分野の職業に生涯にわたり従事するという明確な目的意識がある人を求めます。

地域医療に興味があり、将来長崎県の地域医療を支えていくという強い意志を持つ人を求めます。長崎県医学修学資金の貸与を受けない「推薦入試A」と受ける「推薦入試B」からなります。

1～3年次に長崎県の医療についての理解を深め、離島・へき地医療に重要なプライマリケア・小児科・産婦人科・救急医療などに関する広い知識を習得する「地域医療ゼミ・医学ゼミ」を受講します。

卒業後は、「推薦入試A」では長崎大学病院群で2年間の初期研修を含む3年間研修すること、「推薦入試B」では長崎県が指定する医療機関で9年間研修することが条件となります。

また、「推薦入試C」では、佐賀県又は宮崎県が指定する医療機関で研修することが条件となります。

## 地域枠 (推薦A、B、C)

グローバルヘルスあるいは基礎医学研究等に興味があり、医学の発展に携わるという目標とそれを貫く強い意志を有する人を求めます。

入学後は、以下の4つのコースのいずれか1つに所属し、医学研究に必要な基礎知識の習得や研究内容の発展を行い、将来の研究医に必要な基礎を築きます。

- ①熱帯医学研究医コース（熱帯医学の基礎研究に貢献する者）
- ②国際保健医療コース（国際保健医療、放射線健康科学分野に貢献する者）
- ③一般研究医コース（基礎医学研究に貢献する者）
- ④法医学コース（法医学研究に貢献する者）

卒業後、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（医学系基礎研究分野）に進学することが条件となります。初期研修後の大学院進学も可能です。

## グローバルヘルス 研究医枠 (推薦D)

# 医学科教育の特色

通常の基礎～臨床の講義に加えて、当医学科では以下のようなユニークな講義を行っています。

## リサーチセミナー

医師として、日々患者さんを診察し、治療することは重要ですが、医学の進歩のためには、未知の疾患の病因を解明したり、新たな治療法を開発したりすることもとても重要なことです。そこで、長崎大学医学部医学科では、研究者マインドを身につけてもらうために、学生は3年次に2ヶ月間、希望する基礎医学研究室に配属され、教員からのマンツーマンの指導を受けます。その間、毎日朝から夕方まで、研究に没頭します。教員指導のもと論文を読んで、現在の医学の問題を探し出し、問題に対する仮説を立て、そして綿密な実験計画を立てて実験を行うことによってその仮説を検証するというものです。また学会などでのプレゼンテーション能力を養うために、リサーチセミナー終了後に、2日間かけて研究成果発表会を行います。さらにリサーチセミナー終了後もその研究室に通い、卒業前に英語で論文を書く学生もいます。



## 国際学術交流

医学科では、グローバルなセンスを身に付けた医療人育成を目的として、海外の大学で基礎医学研究及び臨床医学研修に従事できるプログラムを提供しています。母国を離れて外国で医学を学ぶ経験は大変貴重なものであり、必ずや人間形成にも役立つものです。開学の祖、ポンペゆかりのライデン大学（オランダ）やシーボルトの出身校であるビュルツブルク大学（ドイツ）、放射線の健康影響についての解明で共同研究中のベラルーシ医科大学（ベラルーシ）、そして、シンガポール国立大学（シンガポール）、ハーリム大学・プサン大学（韓国）が現在の派遣先となっています。海外基礎研究に関しては3年次に開講されるリサーチセミナー時に、海外臨床研修は6年次前期の高次臨床実習時に希望する海外大学で実施されることになっています。また他にもポルトガル、ブラジル、中国、モンゴル、東南アジア諸国等々の大学・機関と学術交流協定等を結んでおり、希望があれば適宜交流可能となっています。



## 離島・へき地医療

長崎県は全国で最も多くの離島を有しており、県総人口の8.6%にあたる約11万8千人の住民が離島に暮らしています（平成27年国勢調査）。長崎大学医学部医学科では、こうした離島を教育フィールドとして、全国でも例のない実践的な地域医療教育に力を入れています。まず、主に地域枠入学生を対象として、1年生の時から離島での早期体験実習を行っています。5年生では、全員が上五島、下五島、対馬、壱岐のいずれかに1週間滞在して「離島医療・保健実習」を行います。離島の病院や診療所での臨床実習はもちろん、漁船に乗って小離島に渡る出張診療に同行することもありますし、緊迫した急患のヘリコプター搬送を体験することもあります。地域保健実習では、地域住民の健康を保持するための取組について学び、実際に健診等の保健活動に参加します。さらに、希望者は6年次に、離島の病院でハイレベルな臨床実習を4週間行うことができます。



## 英語教育

医師は臨床医でも研究医でもインターナショナルでなければいけません。長崎大学医学部医学科では専任のネイティブスピーカーによる医学英語を行っています。外国人を診察でき、国際学会で英語で発表・議論できる医師・研究者を育てます。

## NU-CLEAR Training Program

研究に興味がある学生は、3年次から「Nagasaki University Continuous Liberal-Arts, Education And Research Training Program」(NU-CLEAR Training Program)を選択し、学部在学中から大学院で履修する「共通科目」を先取りで受講できます。よって、卒業後に初期研修を受けながら、社会人の大学院生として研究を続けることの一助となります。



## 大学院医歯薬学総合研究科

医学は近年急速に進歩しましたが、病気の原因や治療法が明らかになった疾患はまだ一部に過ぎません。人間の体の仕組みや病気については今でも未解明のこの方が多く、これらの問題を解決し医学の進歩を支える医学研究が欠かせません。医学部医学科卒業生の多くは、医学研究者や高度専門医療人の道を目指して、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科に進学します。本大学院は、医学、歯学、薬学、保健学の4分野を統合した4年制（医学系の場合）医療系総合大学院で、医学科卒業生は医療科学、新興感染症病態制御学系、放射線医療科学及び先進予防医学共同の専攻課程に進学します。大学院在学中は、柔軟なカリキュラムのもとで各人の目指す研究に没頭し、医学研究のトレーニングを積むと共に研究者としての第一歩を踏み出します。修了後は博士（医学）の称号を得て、一人前の研究者として世界で活躍する医療人を目指します。高度な研究能力と教育能力を備えた大学人の後継者育成も大学院の重要な使命です。本大学院は、世界で活躍する優れた医学研究者、高度専門医療人を多く輩出しています。なお、一般研究医枠、熱帯医学研究医枠及び国際保健医療枠の学生は、本大学院への進学が必須です。



## 原爆後障害医療研究所

原爆後障害医療研究所（以下、原研）は、原爆被爆者の慢性障害（後障害）の治療や発症予防・放射線の人体への影響に関する医学部附属基礎研究施設として昭和37年に設置されました。以後、被爆者の治療・研究のみでなく、チェルノブイリ原発事故後や旧ソ連の核実験場であったカザフスタン共和国セミパラチンスク周辺での放射線障害の研究を各種国際機関と共に進めてきました。さらに福島原発事故後には、放射線健康リスク制御で中心的な役割を果たしています。原研は平成24年に設立50周年を迎えたのを契機に、平成25年には大学附置研究所へ改組しました。平成28年からは福島県立医科大学と「災害・被ばく医療科学共同専攻大学院」を設置し、高度な教育研究を展開しています。「国内外の大学・研究機関との連携の下、放射線健康リスク管理学を中心とした被ばく医療学を推進し、人類の安全・安心を担う専門家を輩出する」をミッションに、今後も被爆地長崎が被ばく医療の世界的拠点となるべく医療・医学研究を展開していきます。

## 熱帯医学研究所

人類は古くから感染症の脅威にさらされてきました。医学ならびに医療技術の発達した現代でも、エイズやマラリアなどいまだに克服されていない感染症は多く、新たなウイルスも日々出現しています。また地球温暖化や交通網の拡大・高速化などにより特定の地域で起きた感染症があつという間に世界中に広がります。長崎大学熱帯医学研究所（熱研）は、熱帯地域を中心に蔓延する感染症の問題に向き合い、薬やワクチンの開発はもとより、環境や貧困問題などの原因を根本から考えて統合的な戦略を打ち出し、人々が助け合いながら感染症を克服する社会の実現を目指しています。2006年からはベトナムとケニアにて長崎大学アジア・アフリカ海外感染症研究拠点を運営し、感染症が発生流行する現場での臨床疫学研究と将来の研究を担う優秀な人材の育成に取り組んでいます。そこでは常駐の연구원と現地の研究者が協力して日夜研究を繰り返しています。熱帯医学に興味のある学生さんは気軽に熱研を訪ねてください。



## 先導生命科学研究支援センター

長崎大学先導生命科学研究支援センターは、動物実験、放射性同位元素を使った実験、分子生物学実験などの研究を支援しています。医学部、医歯薬学総合研究科等を含めた長崎大学の生物学実験の重要な基盤施設としての役割を担い、大学院の学生諸君や大学病院の若手医師が自由な発想で提案した研究を推進できるような環境を提供しています。他大学にまさる設備を整えiPS細胞実験、遺伝子改変マウス実験、遺伝子研究、DNA組換え体実験、タンパク質機能解析、放射性同位元素を使った画像解析などの医学生物学、医科学に必要なとされるほとんど全ての研究が可能な施設となっています。学内の教育研究共同利用施設ということで、医学部の学生の皆さんとは直接繋がりが少ないかもしれませんが、教員は医学部教育も担当しています。医学部入学から大学病院、医歯薬学総合研究科と進んでいく皆さんの将来を支援する研究支援センターです。皆さんが長崎大学医学部学生となって当施設を利用して活躍できる日を楽しみにお待ちしております。



# 長崎大学病院は、あなたの夢を応援します！

あなたが、ドクターになるためには、まず、長崎大学医学部医学科へ入学できるように頑張って勉強しましょう！

次に、医学部医学科で6年間勉強し卒業となりますが、すぐには一人前のドクターにはなれません。まず、幅広い病気に対応できるようになるため、2年間の初期研修が必要となります。多くの場合、この間に自分の希望の専門分野を決めます。そして、後期研修さらには専門医になるための研修を積んで、医学部卒業後8～10年後には一人前の医師（ドクター）と呼ばれるようになります。この間、医学博士となるための研究を行うことも可能です。

長崎大学病院には、若い医師を育てる医師（指導医）が沢山います。そして、人材を育成する専門部署である医療教育開発センターがひとりひとりをサポートしています。長崎大学病院の初期、専門医研修（後期研修）システムは非常に優れており、多くの優れた医師を輩出しています。特に専門医教育に関しては文部科学省より全国トップ5の高い評価を受けています。

長崎大学病院で研修を終えた後は、様々なエキスパートの道へ進むことができます（下図）。医学研究者、大学病院や基幹病院で専門的医療を行うスペシャリスト、そして地域医療を支える開業、勤務医などです。このように、医師として活躍できる領域は幅広く、それぞれが大切な役割を担っています。

医師を目指すあなたと、いつの日か、長崎大学病院で一緒に働く日を楽しみにしています！

先端的腹腔鏡手術



先端的内視鏡治療



先進医療

スペシャリスト

研究者

開業

行政

さまざまな最先端研究を行っています。



長崎県内外で多くの医師が地域医療に貢献しています。

厚生労働省の医系技官、県の保健所などで活躍しています。

全国からたくさんの研修医が集まっています。

専門研修（3～5年）

初期研修（2年間）



ここ長崎は鎖国時代に世界へ開かれた唯一の窓口でした。歴史を紐解けば、日本の西洋医学教育の幕開けは長崎大学医学部医学科と共にあったといえると思います。温暖な気候と温厚で開放的な県民性の当地は、勉学に適した環境だと思えます。

長崎大学では、1年次より専門科目の授業や実習が始まります。入学早々の専門教育は、医学生としての自覚を高めてくれました。2年次には、解剖実習を通し人体構造を学びました。実習は4人1組の形式で、友のいる心強さ、ありがたさを感じました。3年次には、リサーチセミナーがあり、基礎研究への理解を深めることができました。私は現在4年生ですが、後期から臨床実習が始まるため、身の引き締まる思いで勉強しております。

一方、医学科では部活動も盛んに行われています。私はバドミントン部ですが、きれいなスマッシュを決めたいと日々思いつつ、先輩、後輩にも恵まれ楽しく活動しています。また、茶道部では和敬清寂の心を学ぶべくお茶をたしなんでいます。歴史の風に吹かれながら、一緒に新しい医学を学びませんか。(山口)



こんにちは。私は長崎大学医学部の4年生で実際に医師となった時に直面する様々な疾患を日々学んでいます。

長崎大学のカリキュラムは低学年で基礎医学をメインで学びますが並行して臨床科目や病院実習がカリキュラムとして盛り込まれているので日々新しい刺激を受けて医学を学ぶことができます。

また私は長崎大学第一内科リウマチ膠原病内科で関節リウマチや全身性エリテマトーデスの研究をさせて頂いています。マウスや実際の患者さんのサンプルを用いて基礎研究を行っていますのでリウマチ学、ひいては自己免疫疾患・自己炎症疾患の臨床科、熱帯医学研究所、原爆後遺障害研究所、基礎医学教室に通い、学会発表や論文執筆をしていますので研究が活発な医学部だと感じます。

熱意のある学生には熱心に医学を教授して下さる優秀な教育者が医師としての先輩ということも魅力の1つだと思います。そんな長崎大学と一緒に医学を学びませんか？(佐藤)



## Campus Voice

—在校生、卒業生からの声—

こんにちは。私は長崎大学医学部を卒業し、現在長崎大学病院で初期研修医として働いています。長崎大学医学部は日本の医学校の中で最古の歴史を誇ります。「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ、ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものでなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら他の職業を選ぶがよい」という開設の祖であるボンベの言葉は現在に至るまで脈々と受け継がれています。勉学に励む環境としては申し分なく、知識と経験に長けた熟練の先生方にご教授頂き、自らを律することができます。

長崎大学医学部は部活動が充実しているのも特徴です。運動部では日本全国の医学部の中でも屈指の強さを誇ることもあり、かけがえのない経験を得ることができます。

長崎という町は立体的、多角的な港町であり、非常に様々な方面に開かれていて無限の可能性を秘めています。皆様の才能を开花させるにはうってつけの舞台ではないでしょうか。(赤城)

長崎大学医学部開学の祖、ボンベ・ファン・メルデルフォールトは1857年、この長崎で日本の近代西洋医学教育を創立しました。その時のボンベの精神は、基本理念として現代の長崎大学医学部にも脈々と受け継がれています。私は学生時代をこの伝統ある長崎大学医学部で過ごし、その誇りを胸に医師としての道を歩みだしたところです。現在、長崎大学病院で初期研修医としてとても充実した毎日を送っています。

長崎大学医学部の大きな特長だと私が思うのは、多くの海外拠点と海外協定校があり、世界と強いつながりがあるということです。リサーチセミナーと呼ばれる基礎研究や高学年での臨床実習では、日本から離れて様々な場所で学ぶチャンスがあります。みなさんもグローバルな視点をもった医師への第一歩をこの長崎大学で踏み出してみませんか。(井上)

## 長崎大学医学部・熱帯医学研究所の海外拠点と主な海外協定校 —世界とつながる長崎大学医学部医学科—



オランダ・ライデン大学と街並み



ドイツ・デュッセルドルフ大学と街並み



ケニア・熱研拠点



ミシガン州立大学



シンガポール国立大学

ベラルーシ・原研拠点



ベトナム・熱研拠点



韓国・ハルム大学

韓国・プサン大学

## アクセス

### 長崎空港から

#### ■バス

「長崎空港5番のりば」(長崎新地・長崎駅前経由) → 「長崎駅前」下車 → JR長崎駅から

「長崎空港4番のりば」(昭和町・浦上経由) → 「浦上駅前」下車 → JR浦上駅から

### JR長崎駅から

#### ■路面電車

「長崎駅前」(赤迫行き) → 「浜口町」下車 → 徒歩 → 長崎大学医学部

#### ■長崎バス

「長崎駅前」(8番系統下大橋行き(医学部経由)) → 「医学部前」下車 → 長崎大学医学部

### JR浦上駅から

#### ■路面電車

「浦上駅前」(赤迫行き) → 「浜口町」下車 → 徒歩 → 長崎大学医学部

#### ■長崎バス

「浦上駅前」(8番系統下大橋行き(医学部経由)) → 「医学部前」下車 → 長崎大学医学部



●医学部についてのお問い合わせは

長崎大学医学部医学科 学務係

〒852-8523 長崎市坂本1-12-4

TEL 095-819-7010

<http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/>